

2024 年度 食と教育 学術研究 報告書

酪農教育ファームにおける新たな取組の実践的な提案  
ー経営を足場に児童が自己のキャリア教育を考える視点からー

武庫川女子大学教育学部  
藤本勇二

## 要旨(和文)

酪農家の仕事としての価値を考える授業コンテンツを開発し、小学校4年生での授業実践を通じて児童が勤労観や職業観を育成することをめざした。牛乳を毎日飲むことの大切さを学級活動(2)で扱い、酪農家が仕事に向き合う姿勢に触れる時間として社会科、道徳科、それを受けて「どんな大人になりたいか」を学級活動(3)の時間に取り上げる授業を実践した。2023年度の研究ではキャリア形成に迫るために「どんな仕事をしたいか」から取り組んだが、本年度の研究では「どんな大人になりたいか」を切り口にした。これにより児童一人一人が働く意義や目的を考え、より主体的にキャリアに関わる可能性が示唆された。その際に、酪農家の酪農経営や仕事に向き合う姿勢の貢献が明らかになった。

キーワード(酪農教育ファーム, 酪農家の仕事, 経営, 食育, キャリア教育)

## 1. 緒言

食育は、自ら獲得した知を自らの食生活で働かせる学びをつくる場である。学校教育においては、食育に迫る手立てとして、各教科等の学習を通しての取組と学校給食を教材とする取組があげられるため、学校給食と各教科等の内容を接続しながら食育との関連性を吟味する必要がある。接続において、牛乳は毎日給食に登場する身近な食材であり、酪農家の仕事に注目することによって各教科等を通して食に関する学びを実現できる可能性がある。

石井は、SDGsの視点から酪農教育ファームの活動を見直し、その整理を行った結果、「酪農家の仕事の価値」に係る側面について、「酪農教育ファームが児童の学びと関係するとは考えていない酪農家が多い」<sup>1)</sup>といった結果を得ている。藤本は、酪農家の仕事への姿勢の教育的な価値に着目し、教科等横断的に授業実践で取り上げた結果、児童が自らのキャリアを考えることができ、酪農家の経営努力に触れることによって食育としての価値がより高まること<sup>2)</sup>を指摘している。

2023年度の研究では、牛乳を教材としてキャリアと食育とのつながりを明確にすることで、酪農家の経営努力という新たな価値を見出すことができた。

2024年度の研究では、児童が酪農家の経営努力をより実感し、それを足場に自らのキャリア形成を意識できる手立てを明らかにすることを目指した。

## 2. 方法

### 2.1. 研究の手順

- ア 飼料自給率の低下や高齢化、設備・最新技術の非導入、後継者の未確保等の酪農を取り巻く課題の中で安定的な生乳生産、ならびに地域社会と地域農業を持続的に確立している酪農家の経営に関する取組を取材する。
- イ 酪農家の経営努力を「酪農家の仕事の価値」として教材化する。
- ウ 牛乳、酪農を中心にした授業コンテンツを開発する。

### 2.2. 評価の方法

コンテンツの効果の検証を小学生の職業発達において働く価値を宮田<sup>3)</sup>が明らかにした「社会的自己実現」や「誰かの役に立つ」に移行することを評価する評価軸を活用し、またキャリア教育と食育、とりわけ感謝の心や食選択の関連を評価する評価軸を開発し、効果検証を行っていく。

## 3. 結果

### 3.1. 学習指導要領の分析

第5学年我が国の農業や水産業における食料生産の内容において、「イ 生産

の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること<sup>4)</sup>に「経営」の言葉が登場する。ここでは、「共同経営」として「経営」が取り上げられ、個人の農家における労働力不足の克服、収益増加、持続可能な農業経営のための戦略策定、リスク管理、ブランド化、販路拡大などの経営努力には、十分に触れられていない。一次産業の中でも酪農は、経営者としての存在が大きいと言える。例えば初期投資に1億円もかかるリスクが伴うので経営と直接的に結びつく酪農家の仕事を確認できる。さらに、酪農家は、高いコストと不安定な価格の中で、生産性と効率性を向上させるための様々な工夫を行っている。飼料の管理、牛の健康管理、乳製品の品質管理、そして市場の状況に応じて柔軟に対応するための努力が求められており、経営努力の内容を明確にできる。個人の酪農家の経営努力に触れることを通じて、児童が働くことと向き合うことができると考える。

キャリア教育に関しては、平成23年の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」には、「小学校においては、社会生活の中で自らの役割や、働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大、自己及び他者への積極的関心の形成等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養うことが重要である<sup>5)</sup>と記されている。平成29年に告示された小学校学習指導要領総則には、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること<sup>6)</sup>と記されている。学習指導要領の今次改訂にあたり、キャリア教育の視点から小・中・高等学校のつながりが明確になるよう、小学校特別活動の学級活動(3)が新たに設けられたこともあり、児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すことができるキャリア教育の実現が強く求められていると言える。その際に、働くことの現実や必要な資質・能力の育成につなげ具体化する手立てが大切となる。

以上を踏まえると、酪農家の経営努力に触れることを通じて、児童が働くことと向き合う機会が提供できると考える。その際に、酪農家の経営的な工夫や努力、それを実現する働くことへの向かい方を教材化できれば、児童自らが働くこと、どんな大人になりたいかに向き合える指導が実現できる。それが結果として、食育としての価値をより高めることに結び付くと考える。さらには、酪農教育ファームの新たな実践方向として、酪農家の経営努力といった新たな視点から見出すことができるとともに、酪農家が自覚していない「酪農家の仕事の価値」に係る側面について、酪農家がより自覚できる可能性がある。

### 3.2. 教科並びに給食指導を通じた食育のコンテンツの開発

北海道標津町安達牧場の訪問、取材、授業案作成のためのzoomによる打ち合わせの結果、学級活動(3)の指導において児童の勤労観・職業観の育成につながる、食と命を扱う仕事の価値を見出すことができた。飼料の高騰によって経営が圧迫している事実とそれでも牧場経営を続ける酪農家の姿を教材化し、授業実践につなげることが可能となった。酪農家の仕事としての価値を社会科、道徳科、学級活動の教科固有の見方・考え方を生かして児童がキャリアを考える授業について2023年度の実践からの改良点を表1のように得ることができた。

表 1 2023 年との改善点

	2024 年度研究	2023 年度研究
酪農家の仕事	動画の活用（30 分の動画を授業前に視聴する）	動画の活用無し
単元計画	学級活動（2）は栄養教諭による授業 2 時間は、安達氏との交流の時間（教科・領域を明確に分けない） 学級活動（3）は、担任による指導	学級活動（2）・社会科・道徳・学級活動（3）の 4 時間設定 前 4 時間、担任による指導
交流の授業	1 時間は、牛舎からの配信 1 時間は、事務所で対話	2 時間、事務所での対話
目指す資質・能力	どんな大人になりたいか	どんな仕事に就きたいか

### 3. 3. 授業実践

#### (1) 学活（2）：食事から健康な体を考えよう

授業の冒頭、保健で学習した授業内容を想起させ、身長・体重の成長資料から 1 年生時の平均身長・体重を知り、自分の体が成長していることに気付かせた。成長の資料が配られると興味津々に見る児童から「体重が下がっている」「グラフがどんどん右斜め上に上がっている」「体重が重たくなっている」「身長は高くなっている」などとグラフから読み取り、自分の成長に気付いていた。そこで「ということが成長につながってきたのか」と児童に投げかけ、「すすすす育つために大切なことは何かを考えよう」とめあてを提示した。

毎日の生活を振り返り、体の成長について大切なことは、食事、休養、運動であることに気付かせるため「成長するためには何が大切だと思う？」と児童に問いかけると「好き嫌いしない」「早寝早起き」「運動をする」という意見が出た。3 つの中から「食事」に焦点を当て、「めあて」に「食事から」を付けたし、自分の食生活について食べる量、バランス、好き嫌いなどの点からよりよくすることはないか考えさせた。

次に、これまで学習してきた栄養について想起させ、はたらきと食品について確認し、赤色、黄色、緑色の食品が成長するために必要であることを理解させ、昨日の給食の中身を児童が実際に分類したり、献立表から赤、黄、緑の食品を見つけたりする活動を通して、栄養バランスがよいことに気付くとともに、バランスよく食べる、残さず食べることの大切さを感じている様子であった。さらに「休養」と「運動」に焦点を当て、睡眠と成長ホルモンのグラフと骨の断面図を提示する。睡眠時間中に多量に分泌される成長ホルモンの働きから 10 時間程度の睡眠が必要であること、運動で骨を刺激することで強くなることを知らせる。赤の食品に分類されるたんぱく質は容易に摂取できるのに対し、牛乳を飲まない場合はカルシウム不足であるという現状を知った児童から「牛乳を飲んだ方がいいな」などの発言があった。そこからカルシウムを含む食品を食べて運動することが大切だと確認できていた。

最後に、めあてを「何を」「どのように」の視点から具体的で実行性のあるようなめあてを立てるよう促した。児童は「ピーマンを好き嫌いせず食べる」「毎日筋トレを 30 分くらいする」という具体的で達成できそうなめあてを自分で考えられている様子が見られた。次の時間は給食に毎日出てくる牛乳を生産している酪農家の仕事について学習することを予告して授業を終えた。

## (2) 社会科：酪農家の経営努力を考えよう

2 時間目は、牛舎から安達永補・真子さんと交流した。「今日は実際に安達さんとビデオがつながっているので安達さんと呼んでみたいと思います」と児童に伝え、安達牧場と zoom がつながると、児童は「安達さーん」「やっほー」「おはようございます」と手を振り、元気に挨拶する姿が見られ、事前の動画視聴が功を奏し、当交流を楽しみにしていたことがうかがえた。「こちらは気温 10℃位です。そちら標津町は何度くらいですか」と担任が安達さんに尋ねると「今日はあったかい方で、7.8℃、今日の最高気温は 10℃なのですが、10℃を迎えるのは今日が最後です」と聞き、「それであったかい方？」と児童は驚きを見せていた。

授業に先立って視聴した安達（永補・真子）さんの動画を視聴して用意していた質問をする時間を設けた。児童からは「安達さんのお気に入りの牛はどれですか」「牛は何頭いるんですか」「牛の体は洗うんですか」「牛は 56kg のえさを何時間くらいで食べるんですか」「安達さんの牛はどうやって北海道の冬を乗り越えていますか」といくつか質問があがった。その際、安達さんは牛舎の方に向かい、牛を映しながら質問に応じており、牛を見た児童からは「かわいい」という言葉があがった。また、牛が食事をするときの特徴である反芻を行っているところや、牛がブラシをかけている姿を前のめりになって、興味津々な様子で観察していた。安達さんの問いかけに児童は次々とつぶやいたり相談したりしており、離れた場所でありながらも、安達さんと児童は同じ温度感で交流を行っている様子であった。

それから①なぜ酪農をやろうと思ったのか、②酪農を続けることで大変なこと、③酪農を取り巻く課題をどう解決しているかの 3 点を教師から質問した。1 つ目の質問では、永補さんが「やりたくない仕事を選んだ」こと、真子さんの「農家と消費者の距離が遠い」「酪農の大切さが伝わっていない」という言葉に着目させた。3 つ目の質問では、安達さんが酪農をするうえで気づいた大切なこととして、①相手を思いやること、②人のせいにしないこと、③言い訳をしないことの 3 つがあげられた。安達さんが、問題を人のせいにするのではなく、問題をどう解決できるか、自分たちならどう解決できるかを常日頃から考えながら取り組んでいることを児童は知った。

安達さんの話を受けて、「こんな思いで始めた酪農という仕事について安達さんは、どんなことで困ったり、悩んだりしていると思いますか」と担任が児童に問いかけると、「朝早く起きなあかん」「寝る時間が少ない」「お乳絞るのに手がかかる」「2 人じゃ大変」「電気代が高いんじゃないのかな」「休憩時間が少ない」という意見が出た。安達さんのお話の中でも特に、電気代 30 万円、エサ代は毎月 600 万円を超えるという金額の大きさに「うまい棒何本分!？」と児童は驚くとともに、「酪農という仕事は毎日続けている仕事を積み重ねて行うことで、小さな利益を大きな利益に変えていくという仕事」という安達さんの言葉から、経営の視点から酪農家が向き合い、取り組んでいる課題に児童は触れた。

最後に、安達さんに自由に質問する時間を設けた。児童からは、「耳の札をつけるとき牛は痛くないんですか」「どうやって搾乳するんですか」「牛に名前はありますか」「牧草は何という草ですか」「牛の病気って何種類ありますか」「小さい牛はどのくらいで大きくなりますか」と、授業終了間際まで、様々な質問があがった。児童は安達さんとの zoom 交流を通して、酪農を取り巻く現状と取組を知り、酪農家の働きがいや酪農を続ける思いに気づくことができたと考えた。

## (3) 道徳：酪農家の働きがい

3 時間目は事務所で安達永補・真子さんと zoom で交流した。前時を振り返り、「朝起きる時間が早くてすごい」「牛は 1 日に 1～2 時間ほどしか寝ていない」「1 日に 2 回同じ仕事をしている」「しっかりと心を込めて育てていることが動画から伝わって

きた」などと、児童からたくさんの声があげられた。

次に、「安達さんの言葉で心に残った言葉は何ですか」と担任が問いかけると、「酪農のことをみんなに伝えたい」ということがきっかけで酪農家を目指したことが児童の発言からの確認できた。この時点で児童は、酪農家の仕事について考えたことを交流するだけではなく、酪農家の経営努力や酪農を続ける思いをもとに働くことの意味について気づいていると思われた。「酪農家の大変な部分はどこか」と児童から質問があったことを受けて「早起きして、牛のエサや手入れをして…」「エサ代や電気代が高いなあ」。ここで児童の発言が少なくなり、担任は、社会科で地域のお祭りについて考えたことを思い出させることにした。「お祭りの時には、どんなことを苦労されていたの？」すると、「はい！はい！はい！」と子どもたちの声が聞こえ、お祭りとお酪農の両方で「人手不足」が関係していたことを自分たちの学びから理解することができた。また、この問いかけが酪農家である安達さんたちの困っていることについて改めて考えるキーワードとなった。大変なことが多いと感じている児童は、どうして酪農家が続いているのか気になったようだ。酪農家のなり手が減少している背景を教えてください、「後継者がいない」「お金がかかり借金をつくってしまう」「意欲減退」がなり手不足につながっていることを知った。それでも、「大変な仕事でなる人が少ないのに、安達さんはどんな気持ちで酪農家として働いているの？」とのつぶやきも聞こえた。そこで児童に「十人十色」「みんな違ってみんないい」という言葉を引き合いに出し、「それぞれに個性があり、酪農をやっている以上みんな仲間である」。何より、「酪農家をしていて大変だと思ったことはない」と話したことに児童は一樣に驚いていた。「国民のみんなに基本的な食料を供給していかなければならない」「牛さんのことをもっと知ってもらいたい」という使命を感じているからという言葉にも安達さん夫婦の思いの根底に触れ、夫婦で思いのものが違っていても一人一人が働くことについて考える大切さに改めて気付くことができたと考える。加えて、たとえ大変なことがあっても酪農を続けることができている気持ちや酪農を続ける工夫は、生産者と消費者がつながっているからだとして理解し、答えを自分なりに探しながら工夫や努力を続けることが意欲につながるということを児童は学んだ。

その後は、振り返りの時間と質問タイムを設け、安達さん夫婦との交流を通して学んだことを手紙にしてまとめることにした。そして、「みんなが書いた手紙を送るので、どんな返事が返ってくるのかが楽しみです」と締めくくり、授業を終えた。

#### (4) 学級活動 (3)：なりたい大人になる

自分の将来なりたい職業を思い浮かべて、自分の仕事や夢を実現するためには、どんな大人になりたいと考えようと問いかけて授業は始まった。担任から安達永補・真子さんはどんな大人ですかと聞くと、児童から「しっかりした大人」の声が返ってきた。「しっかりした大人」はどんな大人なのか、「命を大切にする」「朝早くから仕事をする」「仕事ができる人」「すぐにできる人」「仕事をぜったいにあきらめない」「やりたくない仕事でも続ける」「ちゃんとみんなのことも考える」と具体化することができた。将来の夢やなりたい職業について児童からは、「プログラマー・ユーチューバー・家を建てられるせつけいし・お父さんみたいな陶芸家・動物園の飼育員」などの意見が出てきた。

次に、その考えた職業に就くためにはどのようなことが関係するのかにつなげて尋ねた。自分の夢に自信をもって答えることが難しい児童もいることに配慮し、児童に友達の夢に対して否定しないで前向きなアドバイスをするように伝えた。考えを深められるように自分の夢の実現に関係ある教科の学習や、係活動、生活の視点から考えるワークシートを用意し、書き込んでもらうようにした。そして、これまで学習してきた安達永補・真子さんはどのような思いをもって働いているかを振り返り、夢を達

成するために課題があったとしても手立てを打ちながら取り組むことが大切であることを伝えた。考える時には、自分の学習や生活に取り組む態度について振り返り、見直すことができるように促した。児童は、「しっかりした大人」を具体化する中で「仕事をぜったいあきらめない」「ちゃーんといろんなことをしている」「おれたちが大変だと思っていることが大変じゃない。」などの考えをもとに、なりたい自分に向けてどんなことに気をつけたらよいか話し合った。個人でワークシートに書き込んでいき、書く内容が見つからない人は周りの友達と相談したり、先生に尋ねたりする様子うかがえた。これまで学習してきた酪農や安達さんたちのことに考えが寄ってしまう場面があったため、あくまで酪農は1つの例として「自分ごと」として考えるように促した。

最後は、本時を振り返り、今後の学習や生活についてのめあてを意思決定した。考えるときに、児童はどのように考えたらよいか難しいため、「何を、どのように、どの程度取り組むか」について、自分のめあてを書くように促した。担任は、机間指導を行いながら個の課題に応じためあてになっているか確認した。児童からは、「牛乳を残さずに飲む。」「毎日1個ずつ覚える。」「友達と毎日いっぱい話す。」「1週間に1回お父さんに見せてもらう。」「エンジンの車種や車体などの種類を1週間に1回調べる。」などの意見が出てきた。

#### 4. 考察

授業前、授業後、2か月後に回答した「何のために働くか」の記述内容が表2である。「いろいろな人のため」「みんなのため」「みんなによるこんでもらいたい」のような「社会的自己実現」や「誰かの役に立つ」に移行したことが確認できる。また、「生きていくためやそのしよくぎょうについてみんなにしらせるため」「みらいや食ひのため」と酪農家の仕事に向き合う姿勢が影響していることも確認できる。

2か月後の質問では、「お金のため」「生活のため」の回答に戻っている点は、酪農家の仕事に向き合う姿勢に触れたことが持続されるためには、計画的な指導がさらに必要

表2 何のために働くか

	事前	事後	2か月後
1	いきるため、今後のため	生活するため	欠席
2	家族やみんなのため	いろいろな人のため、自分のため	人や自分のため
3	お金、家族のため	家のため	お金のため
4	自分のあたまをよくするため	お金のため	お金のため
5	お金をかせぐため、生きるため	自分のため、生活のため	かせぐため、人のやくになるため
6	家族のため、よろこんですごすため	みんなのため	みんなのため
7	家族のため	いろいろとできる大人になるため、かぞくの ため、いきるため	家族のため
8	ニートにはなりたくないから	ニートにならないため	自分のためでもあるしかぞくのためでもある
9	お金かせぐため。生きるため	みんなのため	かぞくのため
10	いろいろなものをかっため	みんなによるこんでもらいたい	どうぶつえんのしいくえん
11	みんなが安心してすごせるようにするため	みんなの生活によゆうがでるように	自分、家族、人のため
12	お金のため・ごはんを買うため・ 家のローンのため・けんこうのため	みらいや食ひのため	お金や生活のため
13	みんなの生活のため	家族のため！自分のため！	生活のため、お金のため
14	お金やばんきょうなどをしている	生きていくため自分をたいせつにするため	お金をもらうため、役にたつ人になるため
15	食べたり買ったり生活したりするため	生きていくためやそのしよくぎょうについて みんなにしらせるため	生活するためとみんなの役に立つため

であること、一方で「お金のため」「生活のため」の指す内容を精査するインタビュー等の必要性が示唆される。

授業前、授業後、2か月後に回答した「どんな大人になりたいか」の記述の内容が表3である。

表3 どんな大人になりたいか

	事前	事後 事後安達さんには、なおこさんのお話を聞いて働くことや仕事をすることで驚いたり喜んだりしたことはありますか	事後	2か月後
1	みんなをえがおにしたい	ぼくは、すきなしごとをしようと思っていただけで安達さんはみんなのためにしごとをしていること	みんなをえがおにする	みんなをえがおにしたい
2	やさしい	たくさんの人のためになっている。	やさしい、しっかりとした大人	やさしくしっかりとした大人になりたいです。
3	ふ通の大人	大切だと思った	失ばいしても、あまり気にしていない大人	強い大人
4	元気な大人になりたい	欠席	欠席	ふつうの大人
5	しっかり仕事ができる大人	たいへんな仕事なのに毎日毎日つづけてすごいと思った	しっかりした大人	みんなを笑顔にできるような大人
6	カッコいい大人	しっかりした大人	カッコいい	カッコいい大人
7	なんでもできる大人	日本中の人のためになる	いろいろとできる大人	れいぎたいたい大人
8	あまりおこらない	しんどいんだなーとおもった	あほらしい大人	欠席
9	やさしい人	たいせつだとおもった	やさしい大人	やさしい大人
10	プログラマー	いいことだとおもう	しっかりした人、おもしろい人どちらでも、どうぶつえんのしいくいん	しっかりした大人になりたい
11	人の気持ちをしっかり考えれる。	らくのうかは、とても大切な仕事。	人の気持ちをちゃんとわかる人。	人のことを考えれる人。
12	やさしくて、かっこいい大人になりたい	大切なこと	人手がすぐないのう業やらくのうのボランティアをする。	動物についてくわしくやさしい大人になりたいです。
13	みんなのためにささえられるおとな みんなのことやじぶんのことになれる人	働くことはみんなのためにある！	みんなのためになることを考えれる大人	人のためになれる大人
14	いろいろできる人	みんなのためにがんばってはたらいっている	しっかりしまじめにみんなのためにできる大人	役にたつ人
15	欠席	自分がいやだった仕事をやっていますごかった。	人のために行動できる大人になりたい。	人の役に立ってみんなを笑顔にさせるような大人

児童1は、「みんなをえがおにしたい」が授業後にも変化していないが「ぼくは、すきなしごとをしようと思っていただけで安達さんはみんなのためにしごとをしていること」と児童2は、「やさしい」が授業での「たくさんの人のためになっている」ことを受けて「しっかりとした大人」に、児童3は、「ふ通の大人」から「失ばいしても、あまり気にしていない大人」「強い大人」と変化している。いずれも安達夫妻との授業の影響がうかがえる。さらに、児童13・14・15は、授業で「働くことはみんなのためにある！」「みんなのためにがんばってはたらいっている」「自分がいやだった仕事をやっていますごかった」を受けて、「みんなのためになる大人のことを考えれる大人」「人のためになれる大人」「しっかりしまじめにみんなのためにできる大人」「役にたつ人」「人のために行動できる大人になりたい」「人の役に立ってみんなを笑顔にさせるような大人」のような「役立ち」に届く記述をしている。酪農家の仕事に向き合う姿勢が、児童のキャリア形成に影響を与えることができた判断する。

授業前、授業後、2か月後に回答した「何をがんばるか」の記述の内容が表4である。設問では、「なりたい仕事（なりたい大人）」とそれに向けて「何を」「どのように」ががんばるか聞いている。児童の回答には、なりたい自分にむけて具体的な目標と行動を意思決定している。これからの学びや生き方を見通し、個人目標について意思決定をする、児童一人一人が自らの生活や学習の目標を決め、その実現に向けて実践しようとする姿がうかがえる。この意思決定に酪農家の仕事がどのように影響を及ぼしたかを今後精査する必要がある。

授業後に安達夫妻への手紙の形で「安達さんと2時間、学習をして深く考えたことや

考えが変わったことを書いておきましょう」と問うた（資料参照）。

表 4 何をがんばるか

	なりたい仕事	あなたは、なりたい自分にむけて、「何を」がんばりますか。	あなたは、なりたい自分に向けて、「どのように」がんばりますか。
1	・じっしやうしゃ、すしや(ゲーム)	・コムカ・とつくん・へんしゅう。	ともだちといっばいしゃべる。よるごはんを作る。
2	小説家	本を読む	いろいろな人の本を1週間に2さつは読む。
3	うちゅうひこうし	うちゅうについて、いろいろ調べる。	2日に1回くらい調べる。
4	はちゆるいのしいくいん	何にひつようかパソコンや図かんでしらべる	毎日一回はしらべる
5	とうげい家	どんなながらあるのかを調べる	家でお皿を作ってみる
6	運動できる大人	ごはんをたべる	のこさずすききらいせず食べる。
7	カーラリーレーサー (ヤリスWRC)	車のエンジンやしゃたいのペンキよう。	パソコンやずかんで1週間1回がんばって調べる
8	すいぞくかんのしいくいん。	魚のペンキようをする。魚のずかんを見る。	まいにちペンキようをしたりずかんを見る。
9	コンビニの店いんさん	はやねはやおき	9時にねる
10	どうぶつえんのしいくいん	どうぶつのエサについてしておく どうぶつのずかんをよくよむ。どうぶつがどこにいるかしておく	いっかげつに3かいとしよかんにいく どうぶつえんにいく どうぶつになれる どうぶつえんのしいくいんのうごきをよくよむ
11	とうげい家	お父さんが、お皿を作っているところを見せてもらう。ノートにデザインや、形や色や、皿にかく絵をノートに書いてみる。	1週間に1回お父さんがお皿を作っているところを見させてもらったり、デザインを考える。
12	欠席	欠席	欠席
13	からだにいいおかしを作るおかし屋さん	アレルギーのことももっと考える	アレルギーの本とかもいっばい読む(毎日1コアレルギーをおぼえる)
14	マンガか	四コママンガをかく	毎日ノートに1ページを書く
15	せつけいし	自分の家のしくみを知る	よく見てかんさつしてみる パパと一しょに木を使って工作する (パパがあいているときに)

その手紙からは、酪農家が仕事に向き合う姿勢（「牛のことを一頭一頭心をこめて育てているのがいいな」と思いました。らく農のことについて、たくさん学べてうれしかったです」「二人のもっと伝えたいという気持ちがとっても伝わってきました。もう1つらく農家がなくなってほしくないという気持ちが二人の話しでもっと強くなりました」に心が動いたことが分かる。さらに職業観（昔はあんまり牛はきらいだったのに仕事やるなんてすごいなと思いました。やる人が少ないのにやってるなんてすごいなと思いました」「えいすけさんは、もともとらく農を、したくなかったのに、するというのが、すごいな、と思いました」「ぼくたちはたいへんだと思っていてもたいへんじゃないってことがびっくりしました。わざわざいやだった仕事をするなんてすごいなと思いました。やる人が少ないのにつづけられるのは、かっこいいなと思いました。しっかりと心をこめて育てると牛さんもうれしいと思いました。あたりまえをつづけるのいいと思いました。とっても楽しかったです。」「やりたくない仕事をがんばってやっているのがす

ごいと思いました。えさ代や電気代は、ねだんがたかいからぼくじょうの近くで自分でえさのえさのぼく草をさいばいしてやることもすごいとおもいました。ぼくはえいすけさんやなおこさんみたいにいやなべんきょうもできるだけがんばってとりくみます」)に触れる記述もあった。加えて食育とのつながり(「わたしは、本当は少しいやだった仕事をしていることを知ってすごいなと思いました。みんなに美味しい牛乳をとどけたいと思っていることを知れてよかったです。牛が105頭いるのに二人で世話をしているすごかったです。いっしょうけんめいにさく乳していることを知ってこれからはもっと味わって牛乳を飲みたいです。いろいろ教えてくれてありがとうございます)も確認できた。

授業後に、酪農家の経営努力がどのように児童の職業観に影響を与えたかを、2分間のインタビュー(担任が実施)を行い、KHコーダーで分析した。担任の質問内容は「安達さんのお話を聞いて勉強になったこと」

「安達さんのお話を聞いてあなた自身もがんばろうと思ったこと」「働いたり仕事をしたりに関して思っていること」「どんな大人になりたいか、そのためにがんばりたいこと」である。右上に登場する、「続ける」「喜ぶ」の言葉に酪農家の仕事の価値が見えており、それが左のどんな大人になるかに影響を与える道筋を今後検討する必要がある。

総則解説には、小学校のキャリア教育の課題として、「これまで学校の教育活動全体で行うとされてきた意図が十分に理解されず、指導場面が曖昧にされてしまい、また、狭義の進路指導との混同により、特に特別活動において進路に関連する内容が存在しない小学校においては、体系的に行われてこなかったという課題もある。また、将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、働くことの現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのはないか、といった指摘もある。」<sup>7)</sup>と言及している。安達永補・真子さんがどんな大人であるか「しっかりした大人」を具体化することで「命を大切にする」「朝早くから仕事をする」「仕事ができる人」「すぐにできる人」「仕事をぜったいにあきらめない」「やりたくない仕事でも続ける」「ちゃんとみんなのことも考える」が生まれた。この酪農家の生き方が、学級活動(3)のキャリア形成において「めざす大人像」と「具体的な取組」の構造と重なっていることが、児童のキャリア形成に寄与する要因であると考えられる。今回の安達永補・真子さんという酪農家の酪農経営や仕事に向き合う姿勢が児童のキャリア形成に貢献したことが記述内容やインタビューの分析から示唆された。その一方で、児童一人一人が働く意義や目的を考え、より主体的にキャリアに関わる姿を説明するためには、今回の研究で感謝の心や食選択の関連を評価する評価軸を開発することができなかったことが課題である。さらに、児童のインタビュー分析を質問内容や時間を精査して進める必要もある。

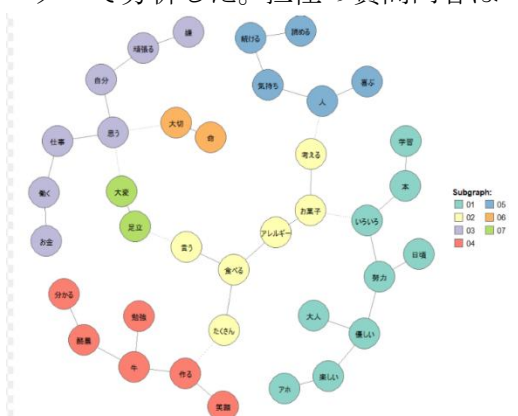


図1 インタビュー記録

## 5. 結語

授業実践を通じて、以下の成果が確認できた。

2023年度の研究で明らかになった牛乳がもつ「キャリアと食育とのつながりをつなぐ教材としての価値」を再確認できると共に、2024年度は、酪農家の経営努力をより実感できることによって児童が、自らのキャリア形成を意識できることが明らかになった。

児童にとって働くことは遠い存在である。しかしながら学校給食に毎日登場する牛乳を生産する酪農家の仕事は、牛乳を通じて「働く」ことを近くに寄せておくことができる。さらに酪農家は、食や命の現場にいることに加えて、高いコストと不安定な価格の中で、生産性と効率性を向上させるための様々な工夫を行っている。飼料代は世界情勢を受けて簡単に上昇する一方で、生乳代は、そういうほど上がるわけではない。搾乳すればするほど経営的には厳しくなる。その中で答えのない問いを考え続けている生き方、つまり酪農家が「働く」ことの教育的な価値がある。

本研究では、酪農家の経営努力の内容を可能な限り明確にするための工夫（酪農家の仕事内容を動画に収録して事前に視聴すること、牛舎での仕事の様子をオンラインで伝えること、生き方に真摯に向き合っている酪農家と出会うこと、酪農家の夫妻であっても働くことの価値観の違いがあることに触れること）が機能したと考える。

さらに、2023年度の研究ではキャリア形成に迫るために「どんな仕事をしたいか」から取り組んだが、2024年度の研究では「どんな大人になりたいか」を切り口にした。酪農家の姿を通して、「どんな大人になりたいか」の視点からキャリア形成に貢献できることが児童の振り返りの記述から明らかになった。酪農家の働く姿や働き方が児童の勤労観に育成につながり、食育に貢献すると捉える。食に関わる問題は生産と消費の距離が離れていることから起こっていることが多く、児童にとって、生産と消費が近づきやすい酪農は、食育に貢献できる。また、生産の現場と消費の現場が近く、消費者である児童にとって生産者である酪農家の姿を掴みやすい。さらに、本研究で酪農家が他の一次産業と異なる価値も見出すことができた。

1つ目は、経営者としての多額の資金を扱っていること。自己資金、融資、補助金・助成金、出資など様々な方法の特徴やメリット・デメリットを理解し、酪農経営の状況に合った最適な資金調達方法を選ぶ、答えのない問いと向き合い続けている点である。

2つ目は、酪農家が生産した生乳を他の酪農家の生乳と合わせて出荷することで、協力しあったり高めあったりしていることが多い。協働的な学びや生き方を必要とする点である。

3つ目は、酪農家によって、飼育やその品質の良いものを見つける方法や答えが異なる。例えば、安価な飼料であっても、乳牛、もしくは環境に合えば、質の良い生乳を出すこともあると言う。酪農家のそれぞれが自分の経営に合った最適解を探していくしかない点である。

牛乳が食とキャリアをつなぎ、児童一人一人が働く意義や目的を考え、より主体的にキャリアに関わること、その際に、酪農家の酪農経営や仕事に向き合う姿勢の大きな貢献が明らかになった。

残された課題は以下の通りである。

キャリアと食育とのつながりを明確にするために1時間目に牛乳を毎日飲むことの大切さを学級活動(2)で扱うように指導計画を立案したが、十分にキャリアと食育との関連を明確にすることができなかった。学級活動(2)で扱う内容である、自分の成長と牛乳のつながりを社会科や道徳、酪農家の働きがいや酪農を続ける思いに気づき、働くことの意味について深く考える指導につながる指導をより検討する必要がある。

学級活動(3)で扱う内容である、なりたい自分に向けて今後の学習や生活についてのめあてを意思決定する指導が本研究の指導だけでは十分ではない。意思決定する学習に慣れるような他の内容項目の積み重ねのある指導が必要である。

上記のような指導上の課題は残されているものの、本研究は当初の目的である、酪農家の経営を含む仕事への姿勢を学ぶことが児童のキャリア形成に役立つだけでなく、「周囲の人の食を大切にしたい」「届けたい」という働く上での「思い」(仕事観)も学ぶことにより、子どもたちの将来のキャリア観を「社会的自己実現」や「仕事の

価値を、誰かの役に立つこと」により近づけることができれば、それまで児童は誰かの労働の結果として得られていると考えていた単なる「食」に、様々な「食」の向こう側に働く人の姿や思いを考えることができるようになり、より食を大切にしたり、作り手の思いに共感して食を選択したりできるようになることも期待できる。

・引用文献

- 1) 石井雅幸(2021)「SDGsの視点を取り入れた食育コンテンツ開発の研究－食材を通して 特に乳を中心にして－2021年度「食と教育」学術研究
- 2) 藤本勇二(2023)「酪農教育ファームにおける新たな取り組みの実践的な提案－経営・経済を足場に児童が自己のキャリア教育を考える視点から－2023年度「食と教育」学術研究
- 3) 宮田延実(2012)「小学生の希望職業からみた職業的発達の検討」日本キャリア教育学会 キヤリア教育研究第30巻第2号 pp. 53-60
- 4) 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領解説社会編
- 5) 文部科学省(2011) 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
- 6) 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領解説総則編
- 7) 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領解説総則編